

## 商店街育ちの元町商店街さんぽ

「今も、お店の上に住んでいますよ。」  
 商店街育ちの私にとって、なんだかほっこりした気持ちになる言葉でした。

奈良県南部の商店街で生まれ、小さいころから日が暮れても明るいアーケードを庭のように近所の友達たちと駆け回っていた私は、商店街中が友達や知り合いで、どのお店を見ても、その家族や奥での暮らしが思い浮かぶような環境で育ちました。だからなのか、商店街を訪れると、この商店街ではどんな暮らしが広がっているのかなと考えたりしてしまいます。そんな田舎の商店街で育った私が、大学で神戸に出てきて、初めて元町商店街を訪れた時、大きく長いアーケードに、とてもワクワクして歩いた事を思い出します。

晴れの日差しが眩しいある日、久しぶりに元町商店街をさんぽしようと、大丸の方から歩き始めました。ファミリアがなくなって寂しいな、新しい店も増えているな、マルシェ的な野菜販売が多いな、マンションが建っ



カステラの香り漂う長崎屋本店



ゆるやかな時間の流れる元町滝公園

声をかけると、そこから楽しい時間がはじまりました。神戸家具の説明や、田村家具の歴史など、昔の図面や写真などを出してきてくれて、たくさんのお話をして下さいました。とても優しい表情で。見せて頂いた図面は、私が普段CADで描いている図面とは大違いで、美しいデッサンのようでした。「この前、ふらっと立ち寄ったオランダ人のアーティストさんが、シャッターにアートを描いてくれたの!!!」と言って、営業中にも関わらず、シャッターを下ろして、シャッターアート“MOVE LOVE”も見せてくれました。その後も、「奥も見てください。」と、今では、趣味のスペースになっていますが、昔は工房だったようです。その頃に使われていた年季の入ったカンナなどもお店に飾られていました。

「今はこちらで住んでいませんよね?」と尋ねると、「今も、お店の上に住んでいます

ているなど、いろんな想いが巡りました。

3丁目あたりで、喉が乾いたので珈琲をテイクアウトしようと立ち寄ったお店に“日本最古の珈琲店”の文字が。隣のお茶屋さんの方に尋ねると、「船でお茶を輸出していた、船を空にして帰ってくるのがもったいないから、珈琲を輸入するようになったんです。」と。150年以上続いていて、6年前から珈琲のお店を再開されたとのこと。ふらっと立ち寄った珈琲店が日本最古とは、改めて元町商店街の歴史を思い知らされました。

香り高い珈琲を片手に歩いてると、可愛いファサードの“マルカ田村家具店”が入ろうかと思いましたが、珈琲もあるので後にしよう、5丁目まで歩くと“長崎屋本店”の看板が見えてきました。珈琲にはカステラですよ!!と、小分けで販売されていたカステラを1つ購入。すると、「今日、焼きたてでやから、1日おいて食べた方が美味しくなるよ。」とお店の方が。思わずもう1つ購入。お店はいつからかと尋ねると「私が4代目で121年。私で終わりなんです。」と。忙しそうだったので、これ以上、話を聞くのは止めました



家具のようなファサードとアート[マルカ田村家具店]

よ。」と返って来て、商店街育ちとしては嬉しく、ほっこりした気持ちになる言葉でした。あまり邪魔してはいけないなど、そろそろ出ようとする、「もう一つ“MOVE LOVE”が近くにあって。」と、お店をほったらかして、そこまで連れて行ってくれました。すると残念そうな顔で、「この人なら、もっと元町商店街のこと教えてくれるのに、いま休憩中やね。」と。「また来ますね!!」とキョーコさんに笑顔で伝え、この日は元町商店街を離れました。

このさんぽを通して、元町商店街の方々の暮らしを垣間見たような気がして、懐かしくあたたかな気持ちになりました。商店街の良さってこういうところだったと思い返し、また商店街で暮らしてみたくもなりました。

今回、感じる事ができたいい意味での“古さ”が、元町商店街の魅力の一つだと思

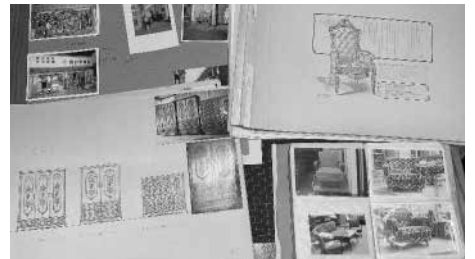
が、「私で終わりです。」の言葉はとても寂しそうにも聞こえました。こんな長きにわたって愛されているお店が終わっていくと思うと、悲しく悔しい気持ちになりました。

少しセンチメンタルな気持ちにならなから、もう少しで滝が流れる公園があったはずと、カステラと珈琲を持って足を進めました。元町商店街に憩いを与えるポケットパークは、木漏れ日が落ち、水の流れも心地よく、当日の香ばしいカステラを美味しく頂きました。公園を出ようとした時、“元町慕情の碑”を発見。そこには、“ここに在りて元町通のあすの発展を夢見よう”とあり、“三星堂”がこの地を去ってもなお元町商店街を想い、土地を寄贈した事が記されていました。ここからも、元町商店街に脈々と受け継がれている強い想いを感じることができました。

おやつタイムも終え、3丁目まで戻り、気になっていた“マルカ田村家具店”へ。ヨーロッパ風の家具等が並ぶお店の奥に、白髪でキュートな女性が座っていました。その女性は、3代目の田村嘉久さんのパートナーで模様替え愛好家としても活動されているキョーコさん。「かわいいお店ですね。」と



職人さんが使ってた道具[マルカ田村家具店]



昔の図面や写真[マルカ田村家具店]

います。こだわりや信念を守り続けているお店が並ぶから、多くの人々が足を運んでいるんだと。来年迎える150周年を通過点に“古さ”と“新しさ”が織り成す他にない商店街の魅力を積み重ねてほしいと思います。

お忙しい中、お付き合い頂きました元町商店街のみなさま、ありがとうございました。次は、いつ元町商店街をさんぽしようかな。

最後に、翌日、もう1つのカステラを口にすると、しっとりしていて、当日と違った味わいでとても美味しかったです。



駒井 陽次 (こまい ようじ)

株式会社Style-A 代表取締役  
 有限責任事業組合PARK Lab. 代表  
 一級建築士/摂南大学非常勤講師  
 (公社)日本建築家協会  
 前兵庫地域会長